



朝の来ない 夜はない

夜はない

しらさぎ会 第24代会長

吉川 葉子



「しらさぎ会」の皆様にはご健勝で活躍のことと存じ上げます。

皆様方には日頃から「しらさぎ会」事業へのご協力・ご支援に心より感謝申し上げます。

今回、「しらさぎ会」のことも知らない私吉川が、会長という大役に選ばれ、その責任の重さを痛感しているところです。現在卒業生は約13,000人を数えるまでになりました。また「しらさぎ会」は関東から九州まで11支部を擁する大きなものになっています。次の柱をもって活動に取り組みたいと思います。

1. 支部総会への多数の皆様への参加をお願いします。
2. 会員同士の結びつきを一層広げて、支部活動の活性化をはかります。

年1回の大切な会です。全国の会員や身近な地域の会員の交流を行います。

しらさぎ会の活動をお知らせし、より多くの会員が集まれる魅力あるものに行きましょう。

3. 県立大学としらさぎ会との交流を深めます。

今の大学の動きを知り、教職員や学生の皆さんとの交流を深め、同窓会の役割を探っていきます。

6月に学長・副学長としらさぎ会理事を代表して会長・副会長の懇談会をもち双方の思いを交流いたしました。

理事会は2019年度から新メンバーとなりました。共に力を合わせて、目標に向かって頑張りたいと思います。

2019年5月からは元号も平成から令和へと変わりました。会員の皆様は昭和・平成に生を受け、現役でご活躍されている方、退職され第二の人生を歩んでおられる方、ご病気で大変な毎日を送っておられる方などいろいろな毎日をお過ごしのことと存じます。

「二つの波(つまり逆境)を乗り越えて、それを振り返って見た時が人生の中で一番愉快なときである。そしてまた次の波が来たら『よし、今度も立派に乗り越えてみせるぞ、朝の来ない夜はないのだから』」と吉川英治氏も言っております。

私はこの言葉が好きです。この先、いろいろなことが起こるかもしれませんが、自分に与えられた立場で皆さん頑

お見舞い

張っていきましょう。今後各支部・会員同士のつながりを大切に、「しらさぎ会」も前進していきたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

今年の九州 東海 関東での風水害・大規模停電等、心よりお見舞い申し上げます。復旧には多大なご苦労があると思存しますが、一日も早く通常生活ができますように心よりお祈りいたします。

ご報告

しらさぎ会 名誉会長

学長 野嶋 佐由美



このたびの 本学永国寺 キャンパス図書館の蔵書の除却に関して大変ご心配とご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

県民の皆様への知的財産である蔵書を管理する立場にある大学でありながら、図書除却に際する配慮が十分でなく、多数の図書を焼却するという結果を招きました。

この除却の作業は平成24年〜28年にわたってできる限り丁寧に検討を進めてまいりました。本学在学生の

教育と研究を保障するという観点から、全教員より意見を頂きながら、真に残す図書を決定してまいりましたので、蔵書構成につきましては利用ニーズを満たしていると考えており、除却した書籍(重複図書約1万8700冊、重複していない図書約6600冊)については、どのように再活用を図るかという点について問いかけの範囲が学内のみにとどまってしまう、県民の方々、県内の公立図書館や大学図書館からご協力を得るといふ点まで広げることができておりませんでした。

本学では、永国寺図書館蔵書除却検証委員会を設置し検証していただきました。その報告書につきましては、ホームページで公開しております。

検証委員会では、①図書館の管理運営体制の弱さ、②図書管理に関する規程の曖昧さ、③高知工科大学等との連携に向けた意識の希薄さ、④組織運営や意思決定の問題、⑤大学内での課題認識や情報共有の不十分さなどの複合的な要素があいまって焼却という結果に至ったと指摘し、今後の改革に向けて、①大学図書館の理念の明確化、②図書館の管理運営体制の強化、③関連規程や細則等の見直し、④選書及び除却の基準の明確化と適正な運用、⑤除却図書学内外での再活用、⑥組織運営と意思決定のあり方を改善するようにとのご指摘を受けております。本学では昨年の11月に図書改革委員会(委員長、一色健司教授)を設置し、指摘されました点について検討し

改革に取り組んでおります。現時

点では、土台となる大学図書館の理念の明確化と、基盤となる関連規程や細則等の見直し、この4月から図書館の管理運営体制を再構築強化を図っております。最も問題となりました、除却・再活用に関しても、除却の基準・プロセスの明確化と適正な運用さらに除却図書学内外での再活用について大きな枠組みを定めることができました。現在、コレクションマネージメントの基本方針と選書・除却・再活用の具体的な方法について検討しているところです。これにより、除却された図書が学内外、県民の皆様方に再活用していただく方法が定まりましたので、廃棄となる書籍は最小限にとどめることが可能となります。

組織運営と意思決定のあり方についても、すべての学内の組織で、意思決定の質の妥当性を吟味したうえで、意思決定をすること、さらにPDCAサイクルによる組織運営を行うことを共通目標として改革に取り組んでいるところです。

この4月からセンターの機能、特に図書館委員会を全学的な組織とし、意思決定できるように強化、再構築しております。

除却する図書の基準や過程についても規定等で定め、今回の事態を招いたことにつきまして厳しく反省し、さらには検証委員会のご意見、県民の皆様方のご意見を真摯に受けとめながら、今後さらなる本学図書館の運営改革並びに大学の運営改革に取り組んでいく所存でございます。しらさぎ会の皆様方からのご助言をいただければ幸いです。どうかご支援よろしくお願いたします。

永国寺キャンパス整備が終了しました!



2階は体育館、1階は
学生食堂と生協



正面は学生会館、
右手は図書館



地域連携棟



教育研究棟



旧図書館は学生会館となつて、
部室などに使われています。



北の実験棟と作
法室のあつた
ところは図書館と
自転車置き場
になっています。
今は作法室なん
でもちろんあり
ません。

今も県立大の
いろいろなど
ところから高知
城がよく見え
ます。



地域交流広場の芝生
もしっかり育ち、憩い
の場となっています。
南側にはしらすぎ会
が建立し、昨年仕上がったモニュメント(詩の
翼)があります。風に乗って自由自在に動き、見
ていて飽きません。



南舎のあつた北側は駐車場
となり、南側は地域連携棟
です。



運動場の跡には工
科大と共通の建物
である教育研究棟
が建っています。
6階建てで外階段
からも出入りでき
ます。



背の高いソファは周りの音を遮断
します。この中に座ると周りの音
が聞こえなくなり、集中して作業や
話し合いができます。

廊下のいろいろな
ところにこんなテー
ブルとイスが置か
れていて、ちょっと
した話し合いもす
ぐできます。



トイレの手洗いです。
明るくて清潔で、とて
も使い易そうです。
人を感知すると電灯
がつき、トイレ蓋は自
動開閉で離れると水
が流れるという、高知
では最新のトイレで
す。昔の女子大から考
えると夢のよう!

(編集小委員 仁尾 郁)

ようこそ先輩 後輩の皆さん

城田千佳子さん (看護学科27回生 昭和56年3月卒業) 高知県在住

出会いに感謝して

同窓生の皆さん、お元気ですか。早いもので、卒業して38年が過ぎ、今年の誕生日で還暦を迎えました。秋には看護学科27期生の還暦同窓会が計画されており、今から楽しみにしています。

実習病院に就職し、急性期病棟外来勤務、行政、教育と様々な看護の場を経験し、今は急性期の後方支援病院で、頼もしい先輩たちに囲まれて、最後の仕事をさせてもらっています。今まで無事に仕事を続けてこられたこと、出会った全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

ターミナルケアに関心があり、内科病棟に配属された1年目、白血病や多くのがん患者さんの看取



研修会に参加して、10数年振りに看護学校の教え子と再会し、「訪問看護ステーションの所長をしています」と名刺を

りを体験しました。担当が自分ではなかったら、もったいない看護を受

けられていたのではないかと、申し訳ない気持ちでいっぱいになり涙があふれました。臨床の怖さを

知り、命の重みに押し潰されそうになりながらも、寄り添うことの

大切さを学び、患者さんの生き様から学び、看護のタペストリーを

紡いできました。先輩から「看護は無形のアートで、どんな形でも

相手に入っていくけるもの、相手の心へ響かなければ意味が無いの

よ」と言われた言葉が胸に刻まれています。臨地実習では学生さん

に「目の前にいる患者さんが一番の教科書ですよ」と、常日頃指導

しています。

貰った時は、在宅看護論の授業も、少しは役に立ったのかなと嬉しく思いました。出会いと縁は不思議なもので、今の職場でも2人の教え子と一緒に仕事をしています。

白石 操さん (英文科6回生 昭和40年3月卒業) 愛知県在住

ボランティアは私の精神安定剤

私が楽しんで出掛ける場所は「A助け合い組織「けやきの会」です。この会はミニデイサービス7会場、サロン5会場、喫茶と軽食の店を運営し高齢者福祉に力を入れているボランティア団体です。平成10年に立ち上げた団体ですが、平成15年退職後もなく入会し16年になります。楽しみながら仲間ができる50名余の無償ボランティア団体です。特に喫茶と軽食の店「青い鳥け

仕事以外では、毎週土曜日に通うお茶の稽古が心の拠りどころです。「二期一会」の精神は仕事にも通じるものがあると思います。生かされていることに感謝し、今日も一日笑顔で、永国寺町のしらすぎのミニユメントを眺めながら、車を走らせています。

私達は全員70過ぎのおばあちゃん。お客様の人生物語を聞かせて頂いたり、厳しい味付けの評価を頂いたり。お客様とは利害関係がない代わりに共創して心地よい居場所作りに励んでいます。自分の出来る範囲で協力する、無理をしないことが活動を長続きさせる秘訣です。

「やきの森」は旧園舎を借り受け、自分達で改装し、少子高齢化が進む地域社会で誰もが安心して暮らせる地域作りを目指し立ち上げた交流の場です。アットホームな雰囲気、の漂う店のお薦めメニューは無農薬野菜をたっぷり使ったメニューとランチ。愛知県は日本一野菜の取得量が低い県なので野菜も美味しく沢山食べて頂けるよう、メニューも工夫し食育にも力を注ぎ高評価を得ています。



▲ミニデイサービスの利用者さんと一緒に 筆者前列右端



▲ミニデイサービス (中学生ボランティアさんも一緒に)



▲おこしもの作り 左から4人目

玄馬佐知子さん(家政科17回生昭和59年3月卒業) 岡山県在住

セカンドライフ 人生の扉を開ける楽しさ

私は、平成30年の春、34年の教職生活にピリオドを打ちました。元氣なうちに第2の人生をスタートさせたかったからです。でも実際に退職してみると、24時間全てが自分の時間で毎日が夏休み状態。職業柄、1日中しゃべっていた生活から、家族と愛犬としか会話しない生活に。「これはまずい」と気付き、近くのジムに入会。今まで知らなかった、午前中のジムはすごく平均年齢が高いことを。でも、皆さん生き生きしていい！筋トレ、ヨガ、水泳と自分のペースで心地良い汗をかき、ジム仲間も増え、心も体も健康になりました。

手作りの幸せ

我が家の畑で野菜作りを始めると、様々な発見がありました。店で買った野菜とは全く違う野菜本来のおいしさに感動しました。有機栽培を目指して、日々虫や鳥との戦い。いい汗をかいています。自分で作った野菜を使って作る料理や常備菜は、安心して食べることができます。野菜嫌いな孫にも



是非、野菜のおいしさを知ってもらいたいと願うババです。現役時代にできなかった趣味も、今は思いきり楽しんでいます。絵手紙、陶芸、ガーデニング、旅行…家庭科の教師をしていたためか、「元から作る」ことが大好きで、心から手作りを楽しんでいます。趣味をすることで仲間も増え、人生に幅ができるように感じます。

この夏は、1週間信州の旅を満喫し、雪渓や可憐な花々が咲き乱れる北アルプスに感動しました。今年の春から月1回、市の栄養教室に参加しています。食生活改善推進員(栄養委員)の育成を目的にしている会です。教えていただいた調理実習を後日、学区の方々とレシピ片手に楽しく調理しています。

これからの人生後半、主人との掛け合い漫才を楽しみながら、元気に「実り多き下山」を目指して過ごしたいと思う今日この頃です、私のテーマ曲である竹内まりやさんの「人生の扉」のように。
♪I feel it's nice to be 50♪



玉井千恵さん(国文科11回生昭和45年3月卒業) 愛媛県在住

日本の心を育てる

38年間の教員生活を終え、平成21年、「鶴亀子ども能楽教室」を設立。11年目の令和元年、小学1年生から高校生までの17名の子どもたちと、「鶴のように美しく、亀のように一歩一歩前進」を合言葉に、能楽の基本である謡いと仕舞をお稽古しています。

53年前の高知女子大では、国文科の学生は謡曲部に全員入部するのが決まり。外部から能楽の先生が来てくださったり、新入生は「鶴亀」の謡い、「熊野」の仕舞からお稽古を始めました。先輩は頼もしく迫力があり、18才のわたしたちは憧れと緊張感を持ってお稽古していたことを思い出します。

発表会に向けてお寺や大学の作法室で合宿することも多く、能楽の魅力を感じるとともにおむすびづくりがうまくなり、人間関係を深めることもできました。国文科以外の学生もいて、大学時代の謡曲部での出会いが私の人生を豊かにしてくれました。衛生看護科に在学して謡曲部だった後輩とは、大学を卒業して



▲教え子と能舞会で

15年以上たつて愛媛の本屋で偶然再会。結婚して松山に来たのとこの。早速、観世流の師匠を紹介。厳しい指導の下、お互い切磋琢磨しながら、私は「葵上、吉野天人、巻絹、花月、菊慈童」等、能舞台に立ち続けました。

そして、平成21年からは、文化庁の「伝統文化親子教室事業」に参加。名誉師範を取得した後輩を中心に能楽仲間にも呼びかけ、社会貢献活動に尽力。その結果、子どもたちが能楽を通して伝統文化の良さを理解し、豊かな心が育ち、胸張って自国の文化を紹介できるようになったことは大きな喜びです。また、私自身、子どもたちからパワーをもらい、生きがいにも



▶「松山城天守閣こども能」で桜と共に前列一番左が私、二番目が後輩の関谷由美子(旧姓濱田)さん

なっています。

これからも、この幸せに感謝しながら、令和という新しい時代を命輝かせて、笑顔で生きぬきたいと思えます。日本の心を育てるために。是非、皆様も、桜満開の松山城天守閣での子ども能をご覧にいらしてください。



▲能「花月」の舞台

令和元年度

しらすぎ会の運営体制

- 名誉会長 野嶋佐由美 (学長)
- 顧問 五百蔵高浩 (副学長)、中野綾美 (副学長)
- 【理事】会長 吉川葉子 副会長 岡本真知子、吉村利津子
- 理事 森木妙子、吉田久恵、本間ともみ、渡邊ゆかり、橋村夏世、塩見理香、島田郁子、柴田真弓、小松和加子、稲垣佳代、植月裕子
- 監事 小松美鶴、西原純子
- 【会報編集委員】
- 広報担当理事 本間ともみ、渡邊ゆかり
- 会報編集小委員会 仁尾郁、水田佐智子、森和美、森澤立、中山恭子

しらさぎ会 ● 各支部だより

高知県支部

高知県支部西部地区会を振り返る

●現在の世話役の記憶から西部地区会を振り返ってみます。平成17年10月、青山学長による男女共学になる前の女子大の現状についてのお話で23名の参加があり、平成19年7月には、山根学長から今後取り組もうとする大学像をお話しいただいたと記憶しています。

平成23年2月には、四万十市中央公民館において母校から森下安子先生をお招きし、「家族が介護状態になった時、利用する介護保険制度について」と題してご講演をいただきました。当時は世話役が往復はがきで出欠を確認するとともに市民の皆さんに広報を行い、81名の参加がありました。介護保険制度について皆さんの関心の深さが伺われました。

その後は、何回か高知県支部から原支部長をはじめ多くの先輩に西部地区にお越しいただき、幡多での活動について助言を受け、ようやく重い腰を上げて、平成29年10月に四万十市で支部役員でもある宮田福先生から、「体の中からメーカー 老化のスローダウン」と題して

ご講演をいただき、27名の参加がありました。平成30年10月には麻田支部長のご紹介により、NPO法人土佐観光ガイドボランティア協会の市川典子先生から「チャレンジャーであり続けたい 200名城登城達成」と題してご講演いただき、24名の参加がありました。宮田先生、市川先生ともバイタリティがあり、お話の中にみなさんを引き付け魅了しエネジーをいただきました。

西部地区の課題として、参加者の呼び掛けが課題となっています。若い方の中には名簿の住所は幡多に置いたまま県外で就職していることも考えられるので、もう少し精査できる方法を探したいと思います。うれしいことに、会に参加してもらうことで新たな世話役もできました。

今後は、メンバーの親睦・交流を深め、あまり肩に力を入れず、できる範囲での継続を考えていきたいと思えます。皆さんの参加をお待ちしています。

(世話役 ● 山本弘子 / 看護学科 26 回生)

東海支部

今年こそ

●梅雨のじめじめから一転、ぎらぎら太陽の酷暑がやって来ました。東海地方はとにかく暑いのですが、元気を出して乗り切りたいと思っています。秋には同窓会が待っています。

しかし、毎年のことながら、参加していただける会員の方は少ないのが現状です。そこで昨年度は葉書を出すのに工夫をしました。この数年間のやりとりを調べ、往

復葉書で出す方と普通葉書で出す方に分けてみました。何の音沙汰もない方には普通葉書で同窓会実施の案内だけを出すのです。その分、終了した後に終了報告の形で内容をお知らせし、来年への参加を呼びかけました。結果は今年開いてみないと分かりませんが、事後の報告葉書が一名でも二名でも今年に繋がれば嬉しい限りです。

(支部長 ● 山本眞理子 / 国文学科 16 回生)

是非一度支部総会に御参加を！

岡山県支部



●2018年8月19日(日)、しらさぎ会岡山支部総会をアークホテル内食事処「あくら」にて開催致しました。

今回本部から

の来賓は宮田福先生です。

先生には以前から何度も御参席頂き、その都度で専門の栄養学に基づき我々が日々心がけるべき食事方法についてとてもユーモラスにご教授頂きました。

「今回のお話はどんな内容かしら？」と楽しみにしておりましたところ、開口一番のお話は図書館の蔵書廃棄問題が新聞の一面を飾る程の大事になっているという驚き

の内容でした。岡山の地では知るよしもない事態に参加者一同どうしたことかと心痛めた次第です。新設された図書館なら所蔵場所も増えたであろうはずなのに…。

又、支部会員の方々の中には御自身がこれまでに集積された書物の数々を母校に寄贈したいと希望されている方もいらっしゃいます。大学には今後の御検討をお願い致します。

2019年度は元号が令和に改まりました。新元号初年度の岡山支部総会は9月29日(日)に永国寺キャンパスを訪問致します。躍進を続ける母校の姿を誇らしく感じ、同窓会寄贈のモニュメント「詩の翼」、新設された教育研究棟、図書館、体育館、地域連携棟 etc を目に焼きつけてこようと思っています。

(支部長 ● 平岩博子 / 国文学科 21 回生)

香川県支部

支部活動に新しい風を



●令和元年祈念すべき年に、しらすぎ会香川支部総会を高知県立大学見学バスツアー（以下、大学見学バスツアー）を兼ねて、令和元年10月5日(土)に開催します。

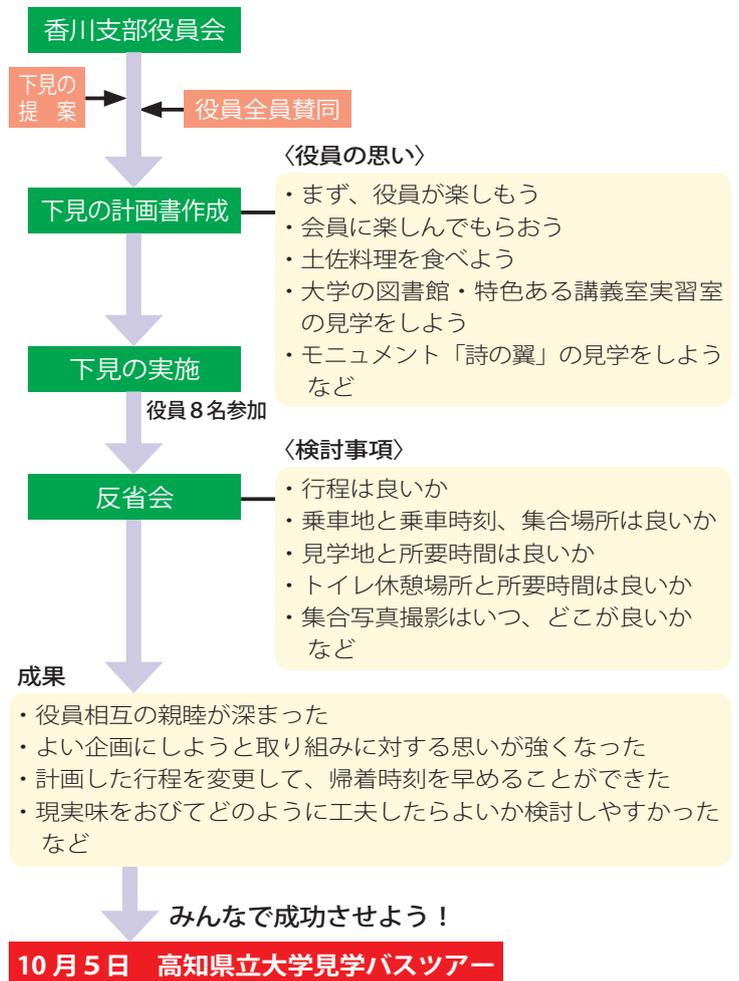
大学見学バスツアーは、平成28年12月に会員(昭和45年卒～平成13年卒の方)にアンケート調査を実施すると大学見学バスツアーを希望する会員が多数いました。それを受けて、大学見学バスツアーを令和元年度支部総会を兼ねて実施する方向で平成29年度支部総会に提案したところ、出席者から賛同を得ました。

その後役員会で大学見学バスツアーの計画を再検討して平成31年3月2日(土)に下見を実施しました。当日は絶好の下見日和で私たち役員は遠足気分でお出しました。高知県立大学永国寺キャンパスと永国寺図書館の下見は、高知県立大学事務局前次長の田上日出男様と、しらすぎ会前理事の梶原和歌様のご案内で、池キャンパスの下見では、高知県立大学総務企画部長の梶浦美和様のご案内により学内や図書館などを下見しました。本当にお世話になり、感謝いたしております。



▲高知県立大学見学バスツアー下見
平成31年3月2日風に舞う「詩の翼」の前にて

次に令和元年10月5日の高知県立大学見学バスツアーの下見の経緯は以下のとおりです。



同窓生の皆さん、高知県立大学の輝かしい未来の発展のために今、私たちにできることはどんなことでしょうか。大学見学バスツアーに参加して体感し発見してみませんか。

役員一同、心を込めておもてないたします。

(支部長●嶋村洋子/家政学科1回生)

徳島県支部

「アットホーム」な同窓会

●私が参加させていただいている徳島県支部の「しらすぎ会」は、2年に1度の割合で開催されています。今回原稿を執筆するにあたって過去の資料を見直してみると、私は20年ほど前から参加していることがわかりました。みなさん気さくな方ばかりなので、何度か参加しているうちに自然と名前と顔を覚えるまでになりました。そして、県内のさまざまな分野でご活躍されていることも知りました。近くの席に座った先輩方に「平成3年に卒業しました。」と自己紹介すると、必ず「平成?うわぁ、若いわねえ。」という返事をされます。それは20年たった今もほとんど変わりません。ということは、残念ながら

若い方の参加者が少ないので、私たちがいつまでたっても「若手」という現状も表しています。先輩方が守ってきた徳島県支部の活動を、私たちより若い世代の人にももっと広めていきたいと思えます。

今夏、私が卒業した国文学科32回生の同窓会が高知で開催されます。全員が50歳を過ぎ、人生の後半戦をたたかう(有意義に送る)ための激励会も兼ねています。(笑)小規模で少人数の大学だからこそ、他の大学には少ない「親しみ」と「深いつながり」ができると思います。

(支部長●鈴木敦子/国文学科32回生)

愛媛県支部

同窓会に参加してみませんか

●支部総会(第53回「しらすぎ会愛媛の集い」)は、6月23日(日)高知県立大学から文化学部教授の橋尾直和先生をお迎えして、参加者20名で行われました。

恒例の写真撮影、学歌斉唱、美味しい食事をいただきながらの近況報告と続きました。近況報告では、学科での同窓会を高知だけでなく、旅行を兼ねて各地で行っているとの話を伺い、充実した学生生活を送った級友たちとの絆の強さを感じました。

橋尾先生の『土佐ことば』を活かす」のお話では、なつかしい土佐弁を声に出しながら楽しく学ばせていただきました。橋尾先生は二次会にも加わっていただき、話に花が咲きました。皆さん名残を惜しみながら、来年も元気に会いましょうと約束してお別れしました。

家政学科12回生の3名が初幹事となり、先輩方に教えていただきながら無事集いを終えることができほっとしています。この集いでは学生時代を懐かしく思い出したり、同窓生の生き生きとしたお話に刺激を受けたりする

ことができます。より多くの方々の参加をお待ちしています。

(幹事●菊地幸子/家政学科12回生)



九州支部「久留米」に決定

九州支部

●いつも福岡を担当していただいている方が事情があって難しいので、今回は福岡県の南部にお住まいの方々にお願いして久留米で開催できないか考えているところです。

呼びかけますのでご都合のつく方をご協力よろしくお願ひします。11月中旬の日曜日でしらすぎ会に相談したり会場の確保等準備を始めています。

今までの九州支部の開催は福岡県8回、鹿児島県2回、熊本県1回、沖縄県1回、佐賀県1回、長崎県1回です。福岡は、市内だけでなく北九州の小倉、柳川、太宰府と場所も研究されています。

その間幹事をしていただいた方、しらすぎ会からの協

力、母校の先生方ありがとうございます。

数学の山本先生、看護科の木場先生、英語の宇久先生等、何回も出席していただき懐かしい話ことができました。最近新しい学問研究のお話も為になります。大学の様子はしらすぎ会だよりと支部会での報告もあり楽しいです。男女共学になって栄養学部にも男性が一人入学され、まわりの学生がやさしく支えているとか、だんだん共学が進んで男性も増えていくのでしょうか。

☆九州の支部会は決まりしだい通知しますので、お友達お誘いあわせのうえご参加を。

お尋ねは090-1519-0393 宮川まで。

(宮川麗子/看護学科14回生)

山口県支部

「私の同窓会活動」



●私の普通の生活の中では、大学の同窓生や高知の話を共有できる人と出会えることはほとんどありません。です。しらすぎ会総会や支部総会に参加した時や会報しらすぎを届けていただいた時には、母校のことや同窓会活動のことを考えたり、自分の過ごした時間や空間に思いをはせることができます。

そのような日々の中、この夏、これも同窓会活動につながっていくのかなと思えるような出来事がありました。

初対面の人と世間話をした折りにひょんなことから高知県立大学という学校名が出て、「こどもとこどもの友達が行きたいと言っている学校なんですよ!」と相手方が言われたのです。話の展開に驚きましたが、わずかな時間でも母校のことを伝えたいという気持ちがわきました。

あとから、もしかしたら未来の同窓生になるかもしれない人に私の言葉が届くのかもしれないなと思うと、うれしい気持ちになりました。

さて、今年は2年に1回の支部総会開催の年です。秋には案内をお届けする予定です。初めてのつどいは平成21年の秋、今回が6回目になります。立ち上げからずっと会を守ってくださった先輩方も、これまで諸事情で参加できなかった方も、そして私のように支部だよりを書いていながらも活動初心者の者も、何かしら新たな気づきや発見に出合える場になればいいなと思っています。

(支部長●道中亜紀/国文学科35回生)

関東支部

同窓会活動・イン関東支部

● 真っ先に今年度の同窓会のご案内をさせていただきました。今、連日35度を超す猛暑の中でこの原稿をしたためております。11月に迫ってきました同窓会の参加者がまだ非常に少なく、企画した役員として責任と寂しさを覚えています。昭和26年に設立され、今回で20回を迎える歴史のある関東支部です。前回の会報に「仕事に没頭している時代は同窓会も忘れがちになりますが、どうぞ先輩方が歩んでこられたこの会を心にとめていつか顔を見せてくださることもあろうかとお待ちする活動です。そして遠く故郷を離れ今この首都圏で生きて頑張ってきたことに拍手を送る会になっていくと良いと思います。」と書いたことを思い出しました。是非2年に一度のこの会に、たまに顔を見せて下さい。まだ間に合います。参加を心からお待ちしています。

今回皆様に同窓会のお知らせをして、返事を回収中なのですが、悲しいお電話もありました。同期の方の訃報を親族の方から受け取ったときです。彼女はとても個性的な方でした。それ程、親しく付き合ったこともありませんでしたが、同じ東京で暮らしていたことは、名簿でのみ知っていました。卒業して長い年月が過ぎました。お互いのこと

はほとんど知らないで生きてきましたが、彼女の人生に思いを馳せ、本当は一度くらい会ってみたいかった！つくづく思いました。

今回は同じ同窓生でもあります、「野嶋学長」さんが来賓として参加して下さいます。大学のキャンパスは全て新しくなりましたが、女子大時代から続くスピリットを感じられれば良いですね。少しでも多くの方の参加をお待ちしています。

(支部長●木村育子/国文学科13回生)

しらさぎ会関東支部・同窓会のご案内

日時：令和元年11月2日(土)12時30分～15時

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

東京都千代田区九段北4-12-25

来賓：学長・野嶋佐由美氏

会費：1万円(食事・写真・支部会費2年分含む)

連絡先：090-4385-0950 木村まで

広島県支部

クラス会と支部会

● 今年5月、昭和43年(1968年)に卒業した私たち国文学科9回生のクラス会が行われました。実に13年ぶりの集まりで、10の府県から18名(50名中)が参加していました。お世話になった市村金次郎先生の姿が既に見られなくなっていることが残念でしたが、同じ時代に同じ地で4年間を過ごしたということが何か安心感のようなものを感じさせるのか、とても心なごむ会でした。(そのような時間・空間を作り出してくださった幹事の皆さん、ありがとう!!)

さて、支部会は…という、これも、同じ学び舎で過ごした者たちの集まりです。異なるのは、年齢層が幅広いことと、男性の名前が支部会員名簿に登場するようになったこと。特に「男性の名前…」は、母校が更に輝きを増していきつつあることを感じさせてくれます。勿論、しらさぎ会にとっても…。

いつも支部会に参加して思うのは、年齢の違う方たちのお喋りはけっこう楽しいということです。私自身もそれなりの年齢ではありますが、私の経験しなかった寮生活の話などを聞くと「いつの時代の話？」と驚かされるようなものがあって、青春時代の思い出が大きく膨らんでいくような感じがします。

以前、『生まれたときから(物心ついたときには)、家にテレビがあった』という人たちは、自分たちとは違う

人種(?)だ」と言う知り合いがいました。深い意味は聞き漏らしましたが、何となくわかるような気がします。「家にテレビ云々」はともかくとして、時代の流れとともに人々の意識も変わり、世の中の価値観も変化していきます。「若者」という言葉ひとつとっても、近頃では、車に興味の無い若者、会社の飲み会に拒否反応を示す若者…と、かつては考えられなかったことが付いて語られるようにもなりました。

この「若者」についてだけでなく、おばさんには「わけわからん〜ん！」状態の時代になっちゃっています。でも、だからこそ、いろいろな方たちとお喋りもしてみたいかなのですね。

広島支部では2016年から、これからの支部会活動のあり方について検討を続けてきました。そして昨年、本来ならば広島支部会の開催年でしたが、それは「検討会」のとりあえずの締めくくりの会とし、今年、17回目の広島支部会を開催することとしました。11月10日(日)に福山市(近辺)で…と決まっています。幹事役は、平成27年卒業(看研)の永井庸央さんが引き受けてくださいました。間もなく、案内ハガキが届くことでしょう。支部会で、クラス会とはまた違う楽しみを見つけてみませんか？

(支部長●田中めぐみ/国文学科9回生)

しらさぎ会連絡先

●事務局(Fax・mailは常時)

☎ Fax 088(872)0580 mail: sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp

●<http://www.u-kochi.ac.jp/~sirasagi/>

●事務局員勤務 木&金 9時30分～16時00分

●支部掲示板ができました。ホームページをご覧ください。

●住所変更等、お知らせください！

※同窓会費は終身会費として入学時に納入されています。

会報が届かないのは現住所不明等のためです。

京阪神支部

同窓会にご参加を!!



●「京阪支部の皆様こんにちは！お元気にされていますか？ 昨年開催しました総会では、「永国寺キャンパス紹介＆詩の翼完成までの思い出」のスライドに熱心に見入り、様変わりした母校に歓声を上げ、山崎会長からの女子高等教育発祥の地である母校の伝統を聞き誇りに思うと同時に、私達もそれぞれの立場で頑張っていきたいと励まされました。

また元文学部教授吉村稔先生から「高知女子大学との短い縁、永い縁」のお話があり、先生にお世話になった方々が何人もいて話が弾みました。お楽しみとして華やかなドレス姿で歌曲を独唱して下さった津崎さん、ありがと

うございました。参加者の近況報告も大いに盛り上がり、母校への理解や思いも深められた有意義な会となりました。

今回は令和2年11月8日11時半、交通の利便性を考慮に入れて大阪梅田のホテルグランヴィアおおさかで開催します。来賓に前学長の南先生に来て頂く以外詳細はまだ決まっておりません。盛会になるよう皆様のご意見もお聞かせ下さい。1人でも多くの方の参加をお待ちしております。

(副支部長●河野加代子／看護学科26回生)

「高知の地域文化資源の再発見」開催報告

『学的高知ガイド』出版・学部設置60周年・学部改組20周年記念シンポジウム

文学部長 三浦 要一
シンポジウム実行委員長 橋 尾 直 和

去る7月20日(土)、高知県立大学永国寺キャンパスにて、シンポジウム「高知の地域文化資源の再発見」が開催されました。当日は、梅雨空のなか、140名近くのお客様にご来場いただき、会場はほぼ満席状態となりました。しらすぎ会の皆様には、高知県内のみならず県外からもお越しいただき、誠にありがとうございました。シンポジウムは学部学生も多く参加しており、会場の熱気ある雰囲気

のなかで学ばせていただきました。第一部の基調講演では、高知県立高知城歴史博物館館長の渡部淳氏に「うしなわれゆく土佐文化」をテーマにご講演いただきました。第二部では、渡部氏に加え、高知大学名誉教授の吉尾寛氏、高知新聞芸芸部記者の楠瀬慶太氏、本学から三浦要一文学部部長が登壇し、「地域文化をどう伝えるか」について研究・実践活動をご報告いただき、パネルディスカッションを行いました。パネリストの皆様は、県内における歴史文化研究の第一線で活躍しておられる方々で、その報告内容は大変充実し

たものでしたし、これを受けたディスカッションでも、司会が本事業実行委員長の橋尾直和教授のコーディネートにより興味深い議論がなされました。最後にフロアから、「いわゆる負の遺産をどのように取り扱うべきか」と問いかげがあり、パネリストからは、「公開するかどうかは所蔵者の判断だが、学芸員や研究者等の専門家は地域文化を伝えるために記録していくことが重要だ」といった意見が出されました。3時間にわたるシンポジウムでしたが、素晴らしい登壇者と聴衆の皆様に恵まれ、研究者・専門家や大学の役割、専門性を活かした地域との連携について深めることができました。

このようなシンポジウムを開催することができましたのも、しらすぎ会のご支援の賜物でございます。心より感謝申し上げます。今後とも、在学生・教職員とも精進してまいりますので、温かく見守っていただけますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

こんにちは、高知県立大学学生自治会です。



自治会は、本学の学生がより充実した学生生活を送れるように、また、学生同士の親睦を図るために活動しています。

活動内容はそれほど多くはありませんが、主な活動のひとつとして、年1回、5月中旬に学生大会を開催しています。

この大会では、学生のみなさんからいただいた要望について、大学側へ相談しながら改善を行ったことなどを報告しています。この大会を開催するにあたって、学部によってキャンパスが分かれているため、どうしても移動に時間を要するのですが、非常に多くのみなさんに参加していただいています。

他にも、課外活動支援としてサークル支援金の予算ヒアリングを行ったり、大学からの依頼を受け、入学式・卒業式を挙げる際に新

入生歓迎の辞や卒業生送辞の挨拶を自治会メンバーが務めさせていただくなどしています。

現在、自治会として活動する中で、学生組織としてどのようなことができるのか模索している部分もありますので、是非とも、諸先輩方からのアドバイスなどいただけると幸いです。

どうぞ私たちの活動について、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(前会長 川田竜也 文学部3回生、現会長 岡田聖也 看護学部2回生)

新旧理事も参加しました。

給食経営管理実習

高知家給食



私達は『高知家給食』として小学校給食を想定し、ナシゴレン(マレーシアの炒飯)・うまいっ酢の物・天の川スープ・キウイ・牛乳を提供しました。

今回はマレーシアからの留学生の方々が食べてくださるということで、豚肉やアルコール類が禁じられているハラール対応食となりました。そこで、調味料類と鶏肉はハラール対応のものを使用しました。また、マレーシアの学生と、来高前から密に連絡を取り合い、彼らが好んでいるマレーシア料理のナシゴレンを高知県の野菜などでアレンジし、ナシゴレン di Jepun(和風ナシゴレン)として提供しました。「優しい味でおいしかった」「高知県の野菜がたくさん使われていて良かった」という意見をいただいた一方で、マレーシアの学生からは、「野菜が多い」「本場はもう少し味にパンチがある」などの厳しい意見をいただきました。

今回、しらすぎ会の方が参加され、お話をお伺いすることができました。味が優しくいったせいか、「血圧の高い方に向いているのでは」、「小学校からこのような食事を食べられたら良いのにね」「残食を減らすにはどうしたらよいでしょうね」等のご意見・ご感想をいただきました。

献立の考案から試行錯誤を重ねましたが、異国の料理を和風にアレンジすることは難しかったです。異国の文化と触れ合うことのできる貴重な機会となり、様々なことを学ぶことができました。今回の経験を今後活かしていきたいと思えます。

健康栄養学部3回生 黒川萌音、津田彩花、坂治人、福井梨乃

星に願いを あじさい給食



私たちは、中学生を対象とした給食として「星に願いを あじさい給食」を提供しました。ごはん・エビのあじさい揚げ・豆とチーズのサラダ・天の川スープ・スイカ・牛乳です。

献立作成時に特に工夫したのは、主菜のエビのあじさい揚げです。今回の献立はハラール対応が必要であったため、臭みとりによく用いられるお酒や、献立作成当初使用しようと思っていたはんぺんが使用できませんでした。そこで、大葉やごま油で香りづけをしたり、はんぺんを白身魚のすり身と長芋で代用したりしました。食べていただいたお客様からは、「見た目がかわいく、中学校給食にあっている」「中身の味が薄い」などの意見をいただきました。

今回の実習を通して、ハラール対応や中学校給食の基準を満たす献立作成、調理時のハプニングに対する対応など、提供までは大変なこともありましたが、食べていただいたお客様から「おいしかった」という言葉をいただけたときはとても嬉しく、達成感を感じました。今回の実習で学べたことを将来に活かせるよう、頑張りたいと思えます。

健康栄養学部3回生 大野未来、甲斐千空、竹内詠美、松本晏奈

新聞ばっぐの魅力伝えるために

news paper'sは新聞ばっぐをツールとしたコミュニティづくりに取り組んでいるサークルです。

高知で生まれた環境に優しい新聞ばっぐの魅力に気づき、もっと多くの人に知ってほしい、という思いから誕生しました。現在では5人という少人数ながら、依頼を受けて高知県内の公民館などで「新聞ばっぐ教室」を行っています。7月には高知を飛び出して愛媛の高校生にも教えたり、2年前には国を超えて遠くパラグアイまで私たちが作ったばっぐが届いたこともあります。団体設立当初からお世話になっている津野町白石地区では、定期的に「新聞ばっぐ教室」を開催することで、コミュニティづくりが成功し、地域の女性たちによる「小銭ビジネス」が始まりました。

新聞ばっぐは環境にやさしいとみられます。それだけでなく、この世に一つしかない、自分だけのばっぐなのです。楽しみながら新聞ばっぐを作りそれを利用してもらうことは、これからも持続可能なエコ活動のひとつと思えます。

また、活動資金は全て依頼先からいただく交通費、謝礼でまかなっており、2017年度、立志社中へ「ゼロ円申請」した時から現在まで、自ら獲得した活動資金のみで運営しています。

大学生と新聞ばっぐ。日本でも、世界でも、ここでしかできない体験を私たち news paper'sは提供しているのだという誇りをもって活動を続けます。

文化学部3回生 茂 由佳子

いけいけサロン

私たちの『いけいけサロン活動』は、今年で5年目を迎えています。この活動は、高知県立大学池キャンパスがある地域の住民の方と、学生が交流する機会を定期的に作るために始まったものです。

きっかけは、学生の「池地域について知りたい」「住民の方と関わりたい」という声と、池地域の住民の方の「すぐ近くに大学ができたのに、学生と関わる機会がない」「住民同士で集まるのが減った」という声があったことでした。これまでの4年間の活動を通して、毎月1回日曜日に2時間、学生と住民の方が地域の公民館で集う公民館サロンは、私にとっても、住民の方にとっても、日常の一部となってきつつあると感じます。

昨年度は、現在の3回生メンバーを中心に、皆で池地域を実際に歩いたり、住民の方に話を聞いたりすることで、地域の人、建物、災害、自然、歴史について知り直す活動に取り組みました。住民の方の思いや、これまでの活動を知る機会となり、私たちの活動が住民の方に受け入れられていることに、喜びや感謝の気持ちを改めて感じました。

今年度は『みんなで楽しく心地よく過ごす』を目的に、「ひとりひとりを大切に」「池地域の住民の方と柔軟なスタイルで」「伝える、聴く」を大切に活動しています。例えば、公民館サロン活動は、昔遊びやハーバリウムづくりなどを行って、笑顔と笑い声が絶えない時間を過ごすことができました。そのほかにも、住民の方との災害訓練、個別訪問サロン、地域を知りなおす活動を計画、実施しています。

まだ十分に伝えることができている感謝の気持ちを伝え、この活動をもう一度住民の方に広めていくため、再発信して、地域の方と一緒にこの活動を作っていくしたいと思います。

看護学部2回生 富岡百恵

